

平成29年度 事業報告書

★ 大阪工業技術専門学校

1. 学科別出願者、入学者数の状況 (平成30年5月1日現在)

学科名 \ 区分	定員	出願者	入学者
建築学科	80名	140名(115)	128名(107)
建築設計学科	40名	26名(30)	25名(29)
設備環境デザイン学科	25名	12名(13)	12名(12)
インテリアデザイン学科	40名	25名(23)	25名(22)
大工技能学科	40名	47名(52)	46名(51)
ロボット・機械学科	40名	53名(56)	43名(46)
建築士専科	50名	42名(46)	38名(31)
Ⅱ部建築学科	80名	50名(47)	48名(46)
フレックス建築学科	40名	5名(2)	4名(2)
合 計	435名	400名(384)	369名(346)

() は昨年度数

2. 就職の状況

① I 部 卒業生 (平成30年3月31日現在)

学 科 名	平成27年度				平成28年度				平成29年度			
	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率	卒業者	求職者	内定者	内定率
建築学科	74	41	41	100	57	34	29	85	74	39	36	92.3
建築設計学科	21	17	16	94	19	13	12	92	13	11	10	90.9
設備環境デザイン学科	12	10	10	100	11	8	8	100	8	8	8	100
大工技能学科	30	22	22	100	39	36	36	100	25	21	21	100
インテリアデザイン学科	18	17	14	82	20	14	13	92	16	15	13	86.7
ロボット・機械学科	35	35	34	97	38	33	28	84	36	31	29	93.5
建築士専科	45	44	44	100	41	41	39	95	30	30	30	100
合 計	235	186	181	97	225	179	165	92	202	155	147	94.8

※ 内定率は、内定者÷求職者で、単位は%です

3. 教育行事

- 1) 企業研修 夏季:全学科合計91名 (H28:93名 H27:94名、H26:49名、H25:36名)
春季:全学科合計52名 (H28:55名 H27:67名、H26:42名、H25:27名)

※ 夏季または春季休暇期間中の1~2週間で実施

- 2) 保護者会の実施

※1年生対象:入学式後と12月(計2回)、2年生対象:4月開催(1回)

- 3) 大阪府民の森ほしだ園地、泉佐野丘陵緑地公園等への大工技能作品寄贈

- 4) ロボット競技会の実施、及び全国専門学校ロボット競技会への参加

※第26回全国専門学校ロボット競技会(H29/12/22)の結果

▶有線部門【優勝】、二足歩行型部門【準優勝】

- 5) 第30回Hondaエコノパワー燃費競技鈴鹿大会(エコラン)への参加

- 6) OCT校友会・IIken・学生自治会共同開催による淡路島建築見学バスツアーを実施

4. 教育改革等

平成29年度から「進路基礎講座」をキャリアデザイン授業に本格的に組み入れ、社会人マナーやSPI対策を含め、学生の進路意識向上や活発な進路活動を促すことに効果を上げた。

また、入学直後に実施した学力テストを元に出した学力低位者を対象に「基礎学力育成講座(金曜午後1コマ)」を開講し学力の底上げを行った。専門教科の内容理解のためには基礎学力が必須であり、入学者の中には基礎学力が不足している者も少なからずおり、これら補習講座の実施によって除中退の減少にも多少の効果が図れたと推察する。

併せて、「外国人留学生対象日本語サポート授業」・「公務員試験・大学編入学試験の各対策講座(進路支援主導)」も一定の効果を挙げていると思われ、次年度も継続実施する。

「企業研修」への参加学生数は夏季・春季ともに、ほぼ昨年並みの結果であった。企業研修は職業意識の強化や適性確認等、効果的に進路意識向上を図る術でもあり、また企業においては採用活動そのものに繋がっている場合もある。受け入れ企業数に余裕を残している実情がある中、次年度に向けて企業研修参加への学生数増加に対する継続的な指導を強化する。

全学科(建築士専科・フレックス建築学科を除く)に於いて、文部科学大臣より「職業実践専門課程」に認定されていることから、実践的教育活動に向けたコンテンツの作成を各教育課程編成委員会を通じて、そこから出される意見を参考に継続的な検討を行う。

また、真の意味での職業実践、産学接続を実現すべく各学科で企業、行政等と連携した教育行事を行った。(上記「3.教育行事」参照)

(1) 資格取得強化事業

新入生全員（リカレント学生を除く）に対して実施している『ビジネス能力検定 3 級（文科省後援）』と建築士専科が 100%合格を目標としている『2 級建築士試験（国家資格）』の合格率は下記の通りである。

Ⅱ部・建築設計学科を除く全学科（1 年生）

（平成 29. 12. 3 実施）

資格名	受験者数	合格者数	合格率	全国平均
ビジネス能力検定 3 級	165 名	149 名	90.3%	82.2%

建築士専科

2 級建築士試験					
	受験者数	合格者数	不合格者数	合格率	全国平均
学科試験（1 次）	31 名	28 名	3 名	90.3%	36.6%
製図試験（2 次）	28 名	24 名	4 名	85.7%	53.2%
総合	31 名	24 名	7 名	77.4%	24.3%

☆ エクステンション事業

資格取得支援事業として、主に卒業生及び在校生を対象に各種試験対策講座を実施した。

・講座事業

資格試験対策講座	受講期間	受講時間	受講者数
2 級建築士合格講座（製図）	2 か月	60 時間	26 名
第 2 種電気工事士講座（筆記&技能）	4 か月	65 時間	33 名
合計			59 名

*積水ハウス 設計マインド研修

1 年次導入版として、5/13、14、20、21 に入社 1 年目社員 181 名に研修（講習）を実施した。

4 年次中級版として、8/21、22、23、24、9/4、5、11、12 に入社 4 年目社員 83 名に研修（講習）を実施した。

☆ 校友会の活動状況

1. 総会および懇親会の開催

平成 29 年 11 月 5 日（日）ハービスプラザ大阪にて開催。講演会には、サキタハジメ先生（ミュージカルソー（のこぎり）演奏家）を迎え、のこぎりとの出会い、大工技能学科の皆さんとの出会いについて語って頂き、名曲 蘇州夜曲などを演奏して頂いた。

また、大阪支部総会も同時開催した。

2. 支部活動では、「OCT Walk in 美馬脇町」（大阪支部、徳島支部合同）、「瀬戸内海犬島ツアー」（Ⅱ部建築学科 OB 会）、「ならまち探訪」（奈良支部）、新卒生のための「新会員歓迎会」などを

実施した。

3. 「新外国留学生歓迎・交流会」を「天満橋・リバースイート大阪」で開催した。
4. ビジネスサロンでは、「ゆる茶しましろう」を福紗ゆるり（卒業生）さんの指導で開催した。
5. その他、例年通りドラゴンボート選手権大会に出場、資格取得者への報奨金制度、校友会ネットワーク推薦制度、在学生への助成などを実施した。海外建築視察旅行（イタリア周遊）は参加者が少なく止むを得ず中止とした。

★ 大阪リハビリテーション専門学校

1. 入学試験の状況

区分 学科名	入学定員	志願者	合格者	入学者
Ⅱ部理学療法学科（3年制）	40名	53名 (67)	41名 (43)	40名 (41)
Ⅱ部作業療法学科（3年制）	40名	40名 (36)	37名 (32)	30名 (31)

（ ）は昨年度数

理学療法学科においては、志願者 20%減であったが昨年度並みの合格者を得ることが出来た。作業療法学科においては、志願者 10%増であったが、入学辞退者が7名でたため、昨年同程度の入学者数に終わった。

入学定員の確保と学生の質の担保というジレンマを克服するためには、何よりも志願者増が焦眉の急である。

2. 国家試験の合格者数の状況

専任教員による国家試験対策授業、校内模擬試験、外部講師による直前対策セミナーを実施し、以下のとおり国家試験に合格した。

(1) OCRの合格状況

	受験者数	合格者数	合格 率
理学療法士	25名	24名	96.0%
作業療法士	22名	20名	90.9%

(2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合格 率
理学療法士	12,148名	9,885名	81.4%
作業療法士	6,164名	4,785名	77.6%

3. 就職の状況

求人状況は理学療法士 3,437 件、作業療法士 3,191 件であった。

両学科ともに、専任教員が求人票に基づき学生指導を行うと共に、臨床現場におけるネットワークを最大限活用し就職支援を行った結果下記の通り成果を得た。

	卒業者数	国家試験合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学科	26	24	24	0
作業療法学科	22	20	19	1

4. 教育指導

両学科とも夜間学科として勤労学生等の学びやすい環境を整備する観点から、カリキュラム編成、時間割編成について検討を重ねた。

理学療法学科では、平成 28 年度より 18 時開講とし、土曜日の夜間においても授業を行った。

本来授業のない土曜日の昼間には、事前に学生にアナウンスして、臨床ゼミナールを中心に時間割を編成し、実技指導を中心に教育を実施した。

作業療法学科では、同様の理由から現在行っている時間選択制を続け、その功罪の検証を重ねている。成績不良者に対してきめ細やかな学習支援、個別指導、保護者との連携等の策を講じ、留年ひいては退学を防ぐことに、注力した。

また、両学科ともに職業実践専門課程として教育課程編成会議を年 2 回ずつ開催し、外部の委員の意見を取り入れながら教育方法の改善等を行った。

5. 学習環境（施設）の整備について

2号館の502教室・601教室の絨毯をPタイルに変更し、張替えを行った。また、601教室の机・講堂の椅子を新調した。

学生の健康管理として看護師を毎日常駐させ急病人や健康相談への対応を昨年より行っているが、今年度は新たに心理面での様々な悩みなどについての相談窓口として外部から招いた臨床心理士による学生相談室を設け、学生生活全般におけるストレスや悩みなどに対応する事で心身両面から学生のサポートを行った。

★ 大阪保健医療大学

1. 入学試験の状況

専攻名	区分 入学定員	志願者						入学者
		AO	公募制 推薦	一 般 (センター併用)	社会人	指定校 推薦	合 計	
理学療法学専攻	70	91 (63)	87 (68)	38 (64)	1 (0)	2	219 (195)	75 (71)
作業療法学専攻	30	16 (22)	17 (25)	8 (28)	0 (0)	1	42 (75)	22 (19)
言語聴覚専攻科	40	—	—	—	—	—	36 (54)	24 (33)
保健医療学研究科	6	—	—	—	—	—	6 (5)	6 (5)
合計	146	107 (85)	104 (93)	46 (92)	1 (0)	3	303 (329)	127 (128)

(第2志望含む) () は昨年度数

リハビリテーション学科理学療法学専攻、大学院保健医療学研究科においては入学定員を確保した。理学療法学専攻に関しては志願者数も増加したが、全学的に学生の質を担保するためには何よりも志願者を増やすための分析、対策が必要である。

2. 国家試験の合格者数の状況

学部では専任教員による国家試験対策授業、TAによる対策講座、校内模擬試験、外部講師による対策セミナー、各専任教員による個別指導等を実施するなど、両専攻共に組織的な取り組みと各教員におけるきめ細やかな対応を行った結果、リハビリテーション学科の第六期生の合格率は下記の通りの結果であった。中期計画にて「全国平均の国家試験合格率を上回る」という目標を達成したが、その目標達成にとどまらず、受験生全員の合格を達成できるよう対策を検討していく必要がある。言語聴覚専攻科においては、OCR時代より17年連続合格率第一位を達成した。

(1) OHSU の合格状況

	受験者数	合格者数	合格 率
理学療法士	51名	49名	96.1%
作業療法士	28名	25名	89.3%
言語聴覚士	36名	36名	100.0%

(2) 全国の合格状況

	受験者数	合格者数	合格 率
理学療法士	12,148名	9,885名	81.4%
作業療法士	6,164名	4,785名	77.6%
言語聴覚士	2,531名	2,008名	79.3%

3. 就職の状況

求人状況は理学療法士 3,994 件、作業療法士 3,858 件、言語聴覚士 2,782 件であった。

各専攻、専攻科ともに、専任教員が求人票に基づき学生指導を行うと共に、臨床現場におけるネットワークを最大限活用し就職支援を行った結果下記の通り成果を得た。

	卒業者数	国家試験合格者数	専任職としての就職者数	
			資格に係る業	その他
理学療法学専攻	51 名	49 名	49	0
作業療法学専攻	28 名	25 名	25	0
言語聴覚専攻科	36 名	36 名	33	0

※言語聴覚専攻科では、上記以外の条件で 3 名就職が決定している（臨時・非常勤・特定有期雇用）

4. 教育指導

学部においては資格取得に向けてのモチベーションの維持、国家試験合格率の向上、退学率の抑制、等々を目指して下記の通り、改善を行った。

- ・ 学生支援室の設置
- ・ ガルーン及び Moodle を利用して教室の使用状況を確認するためのシステム導入
- ・ 2 学期クォーター制の導入
- ・ 進級制度の変更、改訂
- ・ フォロー体制の強化
- ・ 少人数制

5. 施設・設備

141・142 教室にベッドを新調し、142・152 教室にはホワイトボードと教壇を設置し、2 学期クォーター制導入による教室不足に対応した。また、2 号館では 502 教室・601 教室の絨毯を P タイルに変更し、張替えを行い、601 教室の机と講堂の椅子を新調し、1 階玄関にはソファを新たに設置し、学生の団らんスペースを確保した。

学生の健康管理として看護師を毎日常駐させ急病人や健康相談への対応を昨年より行っているが、平成 29 年度より学習支援と学生相談のサポートを行う学生支援室を設置し、勉学面や学生生活全般におけるストレスや悩みなどに対応するため社会福祉士や臨床心理士を配置し、より学生が充実した学生生活を送れるように体制を整えた。

6. 自己点検・評価

平成 27 年度に日本高等教育評価機構の大学認証評価を受審し、「適合」の認定を受けたが、その際に付された改善意見 2 点の内残っていた 1 点につき、改善を行った。また、作業療法学専攻が一般社団法人リハビリテーション教育評価機構の教育評価認定審査を受審し、「適合」と認定を受けた。また WFOT も同じく認定を受けた。

教育改革について、運営会議や各専攻と協業し、学長答申に基づき、分析を行った結果、平成30年度より2学期クォーター制を導入する事を決定した。

☆ 福田学園校友会の活動状況

1. 理事会及び部会の開催

①理事会

理事会は6回開催され、研修活動、在校生支援活動、総会準備、予算案等について積極的な議論がなされた。

②部会

P T部会では研修会を4回、O T部会では研修会を4回、S T部会では研修会を2回実施した。

2. 福田学園校友会研修会実施について

次のとおり平成29年度研修会〔対象：校友会正・準会員〕を実施した。

日 時：平成29年6月11日（日）

講 師： 住谷 昌彦先生（東京大学医学部附属病院 緩和ケア診療部長）

テーマ：「疼痛について」

参加者：58名

3. 在校生・学校支援について

- ・在校生支援として、図書室に約20万円分の図書を寄贈した。
- ・会員支援として、カンボジアスタディツアーに助成金を出した。
- ・学校式典に出席、学園祭に出店した。
- ・日本国際ドラゴンボート選手権大会にO C T校友会と合同で参加した。

★ 福田学園

1. 理事、監事、評議員について

理事	選出母体	
1号	設置する学校の長（1名）	福田 益和
2号	評議員会（2名）	宮崎 安弘 佐藤 誠
3号	学識経験者（4名）	山本 一仁 清野 佳紀 渡邊眞一郎 福田 眞
監事		水島 洋 村岡 かほる

評議員	選出母体	
1号	学園職員（6～8名）	福田 益和
		佐藤 誠
		伊東 和幸
		石倉 隆
		今井 公一
		越智 久雄
		宗林 功
2号	卒業生（3～4名）	今西 永兒
		高山 厚
		井口 知也
3号	学識経験者（6～8名）	宮崎 安弘
		山本 一仁
		清野 佳紀
		福田 眞
		福田 祐子
		岡山 保美
		増原 建作
		高橋 弘樹

2. 教職員の状況

		30年5月1日現在	29年5月1日現在	増 減
OCT教員	専任教員	14	15	-1
	非常勤講師	74	66	+8
	(小計)	88	81	+7
OCR教員	専任教員	14	13	+1
	非常勤講師	72	74	-2
	(小計)	86	87	-1
OHSU教員	専任教員	31	31	0
	非常勤講師	168	153	+15
	(小計)	199	184	+15
事務局	専任事務職員	26	24	+2
	業務委託派遣事務職員	3	4	-1
	(小計)	29	28	+1
合計	専任教職員	85	83	+2
	講師・派遣	317	297	+20
	(合計)	402	380	+22

3. 自己点検評価、学校関係者評価、第三者機関評価及び評価結果公表について

OHSU においては、平成27年度に「日本高等教育評価機構」による大学認証評価（第三者評価）を受診し、無事に機構が定める大学評価基準に適合しているとの認定を受けることができた。ただ、「改善を要する点」が付けられているため、平成29年7月10日付で改善報告書を日本高等教育評価機構へ提出並びに大学HP上でも公開した。

OCT、OCR においては、今年度においても、職業実践専門課程の認定（申請条件）の中で、文部科学省が策定したガイドラインに基づき、学内における自己点検・自己評価、また、外部関係者を委員とした学校関係者評価を行うとともに、その結果を OCT、OCR ホームページ上に公開した。

4. 「教育の質の確保と向上」に向けた3カ年計画の策定について

経済状況の変化やグローバル化、就労に対する価値観の多様化、少子化等、学校を取り巻く環境は、日々が大きく変化している。この様な大転換期においては、安定した学生数の確保のため、更なる信頼性の向上が求められ、特に教育の質の確保と向上に向けた取組みは不可欠となっている。このため、引き続き平成29年度も OHSU、OCT、OCR においては、教育の質の確保と向上に対する3カ年計画（「中期展望」、「期間中の取組み」）を策定の上、目標設定等具体的に取り組んだ。特に3校とも、「教育機材、機器備品の購入、校舎、建物附属設備の改修」については、3ヶ年計画の項目に必ず盛り込むこととした。

5. 経費削減対策について

ここ数年で、学園のサーバーのクラウド化及びネット回線・光電話の契約先の変更、学園全体の複合機、コピー機、プリンターの全台入替えによる経費削減、また、1、2号館の空調機の更新、及びデマンドコントローラー設置及び電力使用量の監視測定による電気料金削減を行ってきた。また、大幅な電気料金の削減が期待できる照明機器のLED化を補助金による対応をはじめ、次年度以降対応実施できるよう検討を進めた。

6. 教育訓練給付制度（専門実践教育訓練）の指定について

厚生労働省が主幹となり、非正規雇用労働者である若者等がキャリアアップ・キャリアチェンジして安定的に働くことができるよう教育訓練給付が拡充された『専門実践教育訓練』が創設され、OCT では、平成26年10月に指定（対象入学年度：平成27年度～平成29年度）を受けた建築学科Ⅱ部について、指定期間満了となったが、改めて指定条件が整った事で平成29年10月に再指定（対象入学年度：平成30年度～平成32年度）を受ける事ができた。OCR については、平成27年度 PT（3年制）学科、平成28年度 OT（3年制）学科において指定を受けた。また、OHSU については、平成27年度 ST 専攻科で指定を受けることができた。

7. 文部科学省の認定制度「職業実践力育成プログラム (BP)」の認定について
文部科学省の認定制度である、高等教育機関におけるプログラムの受講を通じた社会人の職業に必要な能力の向上を図る機会の拡大及び大学等における社会人や企業等のニーズに応じた実践的・専門的なプログラムである「職業実践力育成プログラム (BP)」に、大阪保健医療大学大学院保健医療学研究科保健医療学専攻の脳神経疾患身体障害支援学領域が認定された。
8. ネット出願の導入について
OCTにおいて、昨年度、設立された「キャリア教育共済協同組合」でのネット出願事業の先行的取組みを継続活用し、今年度は合計53名のネット出願があった。(前年度実績41名)
特に、3月に実施される最終3回の入試に集中して、内41名の出願があった。また、OCTに続き OHSU の学部においてもネット出願を検討することとなった。
9. 学園施設設備改修計画について
1号館及び5・6号館の外壁調査を行い、緊急性の高い箇所から改修計画の検討を開始した。また、1号館トイレにおいても、改修計画が進み着手することを決定した。なお、今後数年は各建物等の改修計画を検討していく必要がある。

参考資料

★大阪工業技術専門学校

<学科別学生数の状況>

(平成30年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	在籍数	増減	定員	在籍率(%)
建築学科	2年	129	92	221	+38	160	138%
建築設計学科	2年	25	25	50	+7	80	63%
設備環境デザイン学科	2年	12	10	22	+2	50	44%
大工技能学科	2年	47	41	88	+12	80	110%
インテリアデザイン学科	2年	25	19	44	+4	80	55%
ロボット・機械学科	2年	43	45	88	+3	80	110%
建築士専科	1年	38	0	38	+7	50	76%
I部小計		319	232	551	+73	580	95%
増減		+18	+55	+73			
建築学科II部	2年	50	45	95	-11	160	59%
ルックス建築学科	2年	4	7	11	0	80	14%
II部小計		54	52	106	-11	240	44%
増減		0	-11	-11			
合計		373	284	657	+62	820	80%
増減		+18	+44	+62			

★大阪リハビリテーション専門学校

<学科別学生数の状況>

(平成30年5月1日現在)

学科名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法学科	3年	40	42	36	—	118	120	98.3
作業療法学科	3年	32	32	36	—	100	120	83.3
合計		72	74	72	—	218	240	90.8

★大阪保健医療大学

<学科-専攻、専攻科別学生数の状況>

(平成30年5月1日現在)

専攻名	修業年数	1学年	2学年	3学年	4年生	在籍者数	定員	在籍率(%)
理学療法専攻	4年	79	65	65	55	264	280	94.2
作業療法専攻	4年	25	16	31	36	108	120	90.0
学部小計		104	81	96	91	372	400	93.0
保健医療学研究科	2年	6	5	—	—	11	12	91.7
言語聴覚専攻科	2年	26	28	—	—	54	80	67.5
合計		136	114	96	91	437	492	88.8